雇

12画

訓 やとう　音 コ

なりたち 鳥の形を表し、鳥の意味をもつ隹（ふるとり）と、戸との会意形声字。鳩（はと）の一種で戸内に飼う愛玩用（あいがんよう）の〝鳥の名〟。転じて、戸内に住ませて戸内の雑用をさせる〝下僕（召し使い）〟のこと。また、下僕を〝やとう〟こと。

いみとじゅくご ▼賃金を払って人を雇う。雇用…仕事をさせるため、賃金を払って人を雇うこと。解雇…雇いの契約を解くこと。仕事をやめさせること。雇い人…雇われた人。雇い主…人を雇って使う人。日雇い…一日単位の契約で人を雇うこと。また、雇われた人。

▼雇という名の鳥。四季の変わるごとに羽の色が変わるという鳥。

よみかた 雇員

顧

21画

訓 かえりみる　音 コ

なりたち 頭の意味の頁（おおがい）と、美しい鳥の雇との会意形声字。美しい鳥を飼っていると、知らず知らず、頭が鳥の方に向いてしまう、ということで、〝目をかける・心にかける〟こと。転じて、〝振り返る・顧みる〟こと。

いみとじゅくご ▼目をかける。心にかける。愛顧…目をかけて特別に愛するの意味。客が商人や芸人をひいきにすること。用例 日ごろの御愛顧にこたえる。顧客…目をかけてくれる客。ひいきにしてくれる客。お得意。

恩顧…特別になさけをかけること。引き立てること。

顧慮…深く心にかけること。「慮」も「顧」と同じ意味。

後顧…後々の事を心にかけること。後の心配。

顧問…相談を受けて意見を述べる役目。質問を心にかける、という意味の言葉。

▼振り返る。顧みる。

回顧…過去を振り返ること。思い返すこと。顧みること。

一顧…ちょっと振り返ること。用例 一顧の価値もない。

編

【5年】

15画

訓 あむ　音 ヘン

なりたち 篇（へん）（書物）の意味の扁（へん）と、糸との会意形声字。昔の書物は竹の簡（だん）を糸で編んで作った。〝糸で編む〟ことを表した字。それは書物を作ることであるから、〝書物を著す〟意味。

いみとじゅくご ▼編む。手編み…機械でなく、手で編むこと。また、その編み物。

▼書物を作る。編集…文章を書いたり集めたりして一冊の本や雑誌・新聞を作ること。その仕事。編修…❶正しく書物を編集すること。辞書や歴史の本についていうことが多い。❷昔、中国の正史を編さんした官の名。

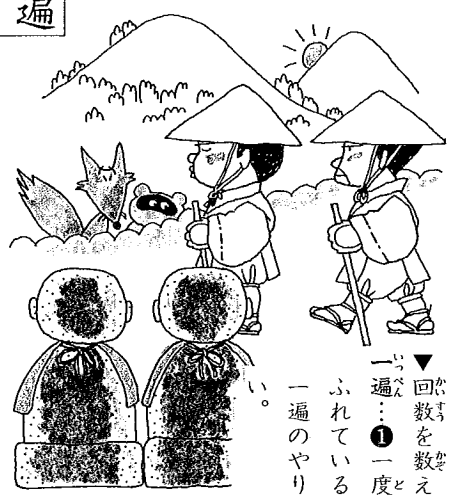
▼書物の中の一まとまりの部分。前編…いくつかに分かれた書物の前の部分。反 後編

▼ばらばらなものを整える。編成…ばらばらなものを一つのまとまった形にすること。

よみかた 編曲・編者・編入・改編・新編・全編・続編・短編・模様編み

遍

12画



訓 ―　音 ヘン

なりたち 七十五戸の村を里と言い、四里（三百戸）を扁（へん）と言った。この扁と辶（しんにょう）との会意形声字で、四里の村に〝あまねく行き渡ること〟を表した字。〝あまねし〟の意味。

いみとじゅくご ▼あまねく行き渡る。あまねし。遍歴…あまねく諸国を巡り歩くこと。また、さまざまな経験をすることのたとえ。遍在…あまねく存在すること。普遍…❶広く行き渡ること。❷すべてのものに共通なこと。反 特殊

遍路…祈願のため、弘法大師（こうぼう）ゆかりの四国八十八か所の霊場などを巡り歩くこと。また、その人。

▼回数を数える言葉。一遍…❶一度。一回。❷ありふれていること。用例 通り一遍のやり方では解決しない。